

病院名: 大阪市立総合医療センター

【小児がん拠点病院 現況報告書(様式)】

様式2 (指定) 問い合わせ先
 様式3 (指定) 病院基本情報
 様式3 (指定) 病院機能

【添付資料】

| 資料番号 | 様式 | 内容 |
|------|-------|-------------------------------------|
| 別紙1 | (指定) | がんセンターの体制及び開催実績 |
| 別紙2 | (別様式) | 長期にわたり診療するための具体的な診療体制 |
| 別紙3 | (指定) | 化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制 |
| 別紙4 | (指定) | 緩和ケアチームの組織・体制 |
| 別紙5 | (別様式) | 緩和ケアチームへの患者紹介の手順 |
| 別紙6 | (指定) | 緩和ケアチームによるカンファレンスの開催実績 |
| 別紙7 | (指定) | 情報提供の方法 |
| 別紙8 | (指定) | 窓口情報 |
| 別紙9 | (別様式) | 地域の医療機関との連携協力体制 |
| 別紙10 | (別様式) | 小児がん患者及びその家族が語り合うための場の設定状況 |
| 別紙11 | (指定) | 小児がん患者及びその家族が語り合うための場 |
| 別紙12 | (指定) | 小児がん患者及びその家族を対象とした小児がんに関する勉強会等の開催実績 |
| 別紙13 | (指定) | 各種小児がんの情報 |
| 別紙14 | (指定) | 診療実績等 |
| 別紙15 | (指定) | 小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況 |
| 別紙16 | (指定) | 小児がんに関する研修プログラムの状況 |
| 別紙17 | (指定) | がん相談支援センターの体制 |
| 別紙18 | (指定) | 小児がん患者団体との連携協力 |
| 別紙19 | (別様式) | 臨床研究を支援する専門の部署の組織・体制 |
| 別紙20 | (指定) | 臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー |
| 別紙21 | (指定) | 臨床研究の実施状況 |
| 別紙22 | (別様式) | 長期滞在施設又はこれに準じる施設 |

| | | | | |
|---------------------------|---|--|----------------|---------------------|
| 病院名 | 大阪市立総合医療センター | | | |
| よみがな | おおさかしりつそうごういりょうせんたー | | | |
| 所在地 | 大阪市都島区都島本通2丁目13番22号 | | | |
| 交通アクセス | 最寄駅 | 地下鉄谷町線 都島駅から 3分、JR大阪環状線 桜ノ宮駅から 7分 | | |
| | 最寄バス停 | 市営バス 総合医療センター前 バス停から 徒歩 1分 | | |
| | インターチェンジ | 阪神高速12号守口線 長柄ランプ(北行き)出口から 5分 | | |
| 電話(代表) | 06-6929-1221 | | | |
| FAX(代表) | 06-6929-0886 | | | |
| 電子メール(代表) | xc0012@byouin.city.osaka.lg.jp | | | |
| ホームページ | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/ | | | |
| 開設 | 開設者 | 大阪市長 | | |
| | 開設年月日 | 1993 | 年 | 12 |
| | | | | 月 |
| | | | | 1 |
| | | | | 日 |
| 面積 | 土地(m ²) | 30,493.81 | m ² | 建物(m ²) |
| | | | | 89,147.98 |
| | | | | m ² |
| 診療科 | 開設診療科数 | 57 | | |
| | 診療科名(具体的に記載) | 総合診療科・感染症センター・乳腺外科・耳鼻咽喉科・眼科・口腔外科・整形外科・形成外科・皮膚科・婦人科・精神神経科・代謝・内分泌内科・腎臓・高血圧内科・泌尿器科・透析部・神経内科・脳神経外科・脳血管内治療科・循環器内科・心臓血管外科・呼吸器内科・呼吸器外科・消化器内科・肝臓内科・消化器外科・肝胆膵外科・臨床腫瘍科・血液内科・緩和医療科・放射線腫瘍科・産科・新生児科・小児総合診療科・小児代謝・内分泌内科・小児血液腫瘍科・小児神経内科・小児循環器内科・小児不整脈科・小児外科・小児整形外科・小児泌尿器科・小児心臓血管外科・小児脳神経外科・小児眼科・小児耳鼻咽喉科・小児形成外科・小児言語科・児童青年精神科・小児救急科・放射線診断科・リハビリテーション科・遺伝子診療部・麻酔科・集中治療部・病理部・救命救急部・初期急病診療部 | | |
| | 外来診療受付時間 | 曜日 | 月曜～金曜 | 時間 |
| | | 曜日 | | 時間 |
| | 外来診療時間 | 曜日 | 月曜～金曜 | 時間 |
| | | 曜日 | | 時間 |
| | 休診日 | 土・日曜日、その他(年末年始・祝日) | | |
| | 初診時の予約 | 一部の診療科で必要 | | |
| 病床数 | 総病床数 | 1,063 | 床 | |
| 小児がん拠点病院としてのメッセージ(200字以内) | すべての小児がんの子どもたちと思春期・若年成人の人たちの命を救うことに全力であたっています。拠点病院の中でも特に骨軟部肉腫、脳腫瘍、造血幹細胞移植、緩和ケアに強みを有しています。また、心理的サポート、疼痛緩和などを行う子どもサポートチームの活動、きょうだい保育室、小児専用緩和ケア病室、復学支援のための療育相談室の設置など、充実したトータル・ケアを行っています。 | | | |

診療実績

平成24年度の実績

全入院患者数(延べ数)

小児がん入院患者数(延べ数)(※1)

緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん症例数(※1)

セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数(※1)

他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数(※1)

小児がん患者の紹介を受けた医療機関数(※1)

小児がん患者の他施設への紹介患者数(※2)

小児がん患者を紹介した医療機関数(※2)

※1 18歳以下の診断例とする。

※2 診断時に18歳以下であった患者を算定するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

| | |
|--------|----|
| 21,344 | 人 |
| 460 | 人 |
| 45 | 人 |
| 27 | 人 |
| 147 | 人 |
| 102 | 機関 |
| 59 | 人 |
| 39 | 機関 |

がんに関する専門外来の名称

小児血液腫瘍外来

職員数

総数(事務職員を含む)

1,903 人
人数 うち常勤(※)

医師

427 354

歯科医師

4 2

薬剤師

37 35

保健師

0 0

看護師

967 943

准看護師

5 0

理学療法士

13 13

作業療法士

3 3

視能訓練士

9 5

言語聴覚士

10 7

義肢装具士

0 0

診療放射線技師

42 42

臨床検査技師

54 48

衛生検査技師

0 0

臨床工学技士

9 9

管理栄養士

8 7

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

| | | |
|---------|---|---|
| 栄養士 | 0 | 0 |
| 社会福祉士 | 7 | 6 |
| 精神保健福祉士 | 7 | 3 |
| 介護福祉士 | 0 | 0 |
| 保育士 | 5 | 5 |

人数 うち常勤(※)

| | | |
|------------------------------------|----|----|
| 日本小児血液・がん学会 暫定指導医 | 3 | 3 |
| 日本小児血液・がん学会 認定外科医 | 3 | 2 |
| 日本小児外科学会 専門医 | 4 | 3 |
| 日本小児外科学会 指導医 | 3 | 2 |
| 日本小児科学会小児科 専門医 | 28 | 28 |
| 日本小児神経学会 小児神経専門医 | 5 | 5 |
| 日本病理学会 病理専門医 | 2 | 2 |
| 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 | 4 | 4 |
| がん治療認定医機構 がん治療認定医 | 44 | 44 |
| がん治療認定医機構 暫定教育医 | 11 | 11 |
| 日本放射線腫瘍学会 認定医 | 1 | 1 |
| 日本看護協会 がん看護専門看護師 | 1 | 1 |
| 日本看護協会 小児看護専門看護師 | 0 | 0 |
| 日本看護協会 がん化学療法認定看護師 | 3 | 3 |
| 日本看護協会 緩和ケア認定看護師 | 2 | 2 |
| 日本看護協会 がん性疼痛認定看護師 | 0 | 0 |
| 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師 | 3 | 3 |
| 日本病院薬剤師会 がん専門薬剤師 | 2 | 2 |
| 日本医療薬学会 がん専門薬剤師 | 2 | 2 |
| 日本臨床細胞学会 細胞検査士 | 5 | 5 |
| 日本医学放射線学会 医学物理士 | 2 | 2 |
| 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師 | 3 | 3 |
| 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士 | 7 | 7 |
| チャイルドライフスペシャリスト | 0 | 0 |
| ホスピタルプレイスペシャリスト | 1 | 1 |

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

病院名: 大阪市立総合医療センター

| 1 診療体制 (1) 診療機能 ① 集学的治療の提供体制及び標準的治療等の提供 | A : 必須 B : 望ましい - : 参考 | はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない |
|---|------------------------------|--------------------------------------|
| ア 小児に多いがん、再発したがん、治療の難しいがん及びその他各医療機関が専門とする小児がんについて、手術療法、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療及び緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療(以下「標準的治療」という。)等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| イ 小児がん患者の病態に応じたより適ながん医療を提供できるよう、カンサーボード(手術療法、放射線療法及び化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。)を設置し、定期的に関催すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| キャンサーボードの体制及び開催実績について別紙1に記載すること。 | | |
| ウ 外来で長期にわたり診療できる体制を整備すること。さらに、地域の医療機関等との連携協力体制を構築すること等により、小児がん患者に対して、成人後も含めて、長期にわたり診療を提供できる体制を構築していること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 長期フォローアップ外来(小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来)の有無。 | - | はい (はい・いいえ) |
| 長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙2に記載すること。 | | |
| エ 急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| ② 化学療法の提供体制 | | |
| 化学療法のレジメン(治療内容をいう。)を審査し、組織的に管理する委員会を設置すること。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙3に記載すること。 | | |
| ③ 緩和ケアの提供体制 | | |
| ア (2)の①のウに規定する医師及び(2)の②のウに規定する看護師等を構成員とする小児の緩和ケアチームを整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 緩和ケアチームの組織・体制について別紙4に記載すること。 | | |
| 緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙5に記載すること。 | | |
| イ 外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備することが望ましい。 | B | はい (はい・いいえ) |
| ウ アに規定する緩和ケアチーム並びに必要なに応じて主治医及び看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に関催すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 緩和ケアチームによるカンファレンスの開催状況について別紙6に記載すること。 | | |
| エ 院内の見やすい場所にアに規定する緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者及びその家族等に対し必要な情報提供を行うこと。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 緩和ケアチームの情報提供の方法について別紙7に記載すること。窓口情報について別紙8に記載すること。 | | |
| オ かかりつけ医の協力・連携を得て、主治医及び看護師がアに規定する緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明及び指導を行うこと。 | A | はい (はい・いいえ) |
| カ 小児の緩和ケアに関する要請及び相談に関する受付窓口を設けるなど、地域の医療機関及び在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備することが望ましい。 | B | はい (はい・いいえ) |

| | | |
|--|---|--------------|
| ④ 病病連携・病診連携の協力体制 | | |
| ア 地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行うこと。また、小児がん患者の状態に応じ、地域の医療機関へ小児がん患者の紹介を行うこと。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 地域の医療機関との連携協力体制について別紙9に記載すること。 | | |
| イ 小児がんの病理診断又は画像診断に関する依頼、手術療法、放射線療法又は化学療法に関する相談など、地域の医療機関の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力体制を整備すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| ウ 患者の状況に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表及び患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備することが望ましい。 | B | いいえ (はい・いいえ) |
| エ ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行うことが望ましい。 | B | いいえ (はい・いいえ) |
| ⑤ セカンドオピニオンの提示体制 | | |
| 小児がんについて、手術療法、放射線療法又は化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断及び治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| セカンドオピニオンが受けられることの情報提供の方法について別紙7に記載すること。窓口情報について別紙8に記載すること。 | | |
| (2) 診療従事者 | | |
| ① 専門的な知識及び技能を有する医師の配置 | | |
| ア 放射線療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師を1人以上配置すること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 放射線療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数。 | - | 3 人 |
| うち常勤の数。 | - | 3 人 |
| イ 専任(当該療法の実施を専ら担当していることをいう。この場合において、「専ら担当している」とは、担当者となっていればよいものとし、その他診療を兼任していても差し支えないものとする。ただし、その就業時間の少なくとも5割以上、当該療法に従事している必要があるものとする。以下同じ。)の化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師を1人以上配置すること。なお、当該医師については、原則として常勤であること。また、専従(当該療法の実施日において、当該療法に専ら従事していることをいう。この場合において、「専ら従事している」とは、その就業時間の少なくとも8割以上、当該療法に従事していることをいう。以下同じ。)であることが望ましい。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 専任の化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数。 | - | 7 人 |
| うち常勤の数。 | - | 7 人 |
| うち専従の数。 | - | 7 人 |
| ウ (1)の③のアに規定する緩和ケアチームに、身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師並びに精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師をそれぞれ1人以上配置すること。なお、当該各医師については、常勤であることが望ましい。 | A | はい (はい・いいえ) |
| エ 専従の病理診断に携わる医師を1人以上配置すること。なお、当該医師については、原則として常勤であること。 | A | はい (はい・いいえ) |
| 専従の病理診断に携わる医師の数。 | - | 4 人 |
| うち常勤の数。 | - | 4 人 |

| | |
|--|---------------|
| ② 専門的な知識及び技能を有するコメディカルスタッフの配置 | |
| ア 放射線療法に携わる診療放射線技師を1人以上配置すること。放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等を1人以上配置すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 放射線療法に携わる診療放射線技師の数。 | — 9 人 |
| うち常勤の数。 | — 9 人 |
| 放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の数。 | — 5 人 |
| うち常勤の数。 | — 5 人 |
| イ 化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の薬剤師を1人以上配置すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の薬剤師の数。 | — 3 人 |
| ウ (1)の③のアに規定する緩和ケアチームに、緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師を1人以上配置すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| (1)の③のアに規定する緩和ケアチームに協力する薬剤師及び医療心理に携わる者をそれぞれ1人以上配置することが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| エ 細胞診断に関する業務に携わる者を1人以上配置することが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識及び技能を有する専門看護師又は認定看護師を配置していることが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| カ チャイルドライフスペシャリスト、小児科領域に関する専門的知識を有する臨床心理士又は社会福祉士のような療養を支援する担当者を配置していることが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| ③ その他 | |
| ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科を包含する居室等を設置することが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| イ 拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備すること。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・化学療法の治療件数(放射線療法・化学療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。 | — はい (はい・いいえ) |
| 論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。 | — はい (はい・いいえ) |
| (3) 医療施設 | |
| 放射線療法に関する機器を設置すること。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 集中治療室を設置することが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| 集中治療室を設置している場合、一般向けの特定集中治療室(ICU)の数 | — 10 床 |
| 集中治療室を設置している場合、小児専門の特定集中治療室(PICU)の数 | — 0 床 |
| 小児がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所及びその機会を設けることが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| 小児がん患者及びその家族が語り合うための場の設定状況について別紙10に記載すること。語り合うための場の一覧を別紙11に記載すること。小児がん患者及びその家族を対象とした小児がんに関する勉強会等の開催実績を別紙12に記載すること。 | |
| 敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組むこと。 | A はい (はい・いいえ) |

| | |
|---|---------------|
| (4) 診療実績 | |
| 領域別の小児がん診療機能、診療実績及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 領域別の診療機能、診療実績及び医療従事者の専門とする分野・経歴などの情報提供の方法について別紙7に記載すること。 | |
| 診療実績等について別紙13及び別紙14に記載すること。 | |
| 固形腫瘍について年間新規症例数が10例程度以上(うち脳・脊髄腫瘍が2例程度以上)であること。(18歳以下の初発診療例を対象とする(平成24年)) | A はい (はい・いいえ) |
| 造血器腫瘍について、年間新規症例数が10例程度以上であること。(18歳以下の初発診療例を対象とする(平成24年)) | A はい (はい・いいえ) |
| (5) その他 | |
| ① 特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」及び特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」であること。 | A はい (はい・いいえ) |
| ② 公益財団法人骨髄移植推進財団が認定する移植認定病院又は日本さい帯血バンクネットワークに登録している移植医療機関であること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。 | - はい (はい・いいえ) |
| 日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。 | - はい (はい・いいえ) |
| 2 研修の実施体制 | |
| 地域の医療機関等の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関するカンファレンスや勉強会等を毎年定期的に行うこと。 | A はい (はい・いいえ) |
| 小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況について別紙15に記載すること。 | |
| 小児がんに関する研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。 | |
| 3 情報の収集提供体制 | |
| (1) がん相談支援センター | |
| ①及び②に掲げる相談支援を行う機能を有する部門(以下「がん相談支援センター」という。なお、がん相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、当該部門において、アからキまでに掲げる業務を行うこと。なお、院内の見やすい場所にがん相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、がん相談支援センターについて積極的に広報すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| がん相談支援センターの情報提供の方法について別紙7に記載すること。がん相談支援センターの窓口情報について別紙8に記載すること。 | |
| がん相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。 | |
| ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供。 | A はい (はい・いいえ) |
| イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績及び医療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関及び医療従事者に関する情報の収集、提供。 | A はい (はい・いいえ) |
| ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介。 | A はい (はい・いいえ) |
| エ 小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談。 | A はい (はい・いいえ) |
| オ 地域の医療機関及び医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供 | A はい (はい・いいえ) |
| カ 必要に応じて、地域の医療機関に対して相談支援に関する支援を行うこと。 | A はい (はい・いいえ) |
| キ その他相談支援に関すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| ① 国立がん研究センターがん対策情報センター(以下「がん対策情報センター」という。)による研修を修了した小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置すること。(平成26年9月7日までに配置する予定を含む。) | A はい (はい・いいえ) |
| ② 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組むことが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| 小児がん患者団体との連携協力について別紙18に記載すること。 | |

| | |
|--|----------------|
| (2)院内がん登録 | |
| ① がん対策情報センターによる研修を受講したがん登録の実務を担う者を1人以上配置すること。(平成26年9月7日までに配置する予定を含む。) | A はい (はい・いいえ) |
| ② 拠点病院の所在する都道府県が行う地域がん登録事業に積極的に協力すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 4 臨床研究に関すること | |
| (1) 進行中の臨床研究(治験を除く。以下同じ。)の概要及び過去の臨床研究の成果を広報すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 臨床研究の情報提供の方法について別紙7に記載すること。窓口情報について別紙8に記載すること。 | |
| (2) 参加中の治験について、その対象であるがんの種類及び薬剤名等を広報することが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| 治験の情報提供の方法について別紙7に記載すること。窓口情報について別紙8に記載すること。 | |
| (3) 臨床研究を支援する専門の部署を設置していることが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| 設置していない場合は設置の予定時期。 | - 年月 |
| 設置している場合は、臨床研究を支援する専門の部署の組織・体制について別紙19に記載すること。臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙20に記載すること。 | |
| (4) 臨床研究コーディネーターを配置することが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |
| 臨床研究コーディネーターを配置している場合その数。 | 7 人 |
| (5) 地域の医療機関と連携し、地域の臨床研究を推進すること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 臨床研究(治験を含む)の実施状況について別紙21に記載すること。 | |
| 5 患者の発育及び教育等に関して必要な環境整備 | |
| (1) 保育士を配置していること。 | A はい (はい・いいえ) |
| (2) 病弱の特別支援学校又は小中学校の病弱・身体虚弱の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われていること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。 | - はい (はい・いいえ) |
| 特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。 | - いいえ (はい・いいえ) |
| 病院内に特別支援学級が設置されている。 | - いいえ (はい・いいえ) |
| (3) 退院時の復園及び復学支援が行われていること。 | A はい (はい・いいえ) |
| (4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置していること。 | A はい (はい・いいえ) |
| AYA世代(思春期及び若年成人)のための場所を確保している。 | - はい (はい・いいえ) |
| (5) 家族等が利用できる長期滞在施設又はこれに準じる施設が整備されていること。 | A はい (はい・いいえ) |
| 部屋数。 | - 8 部屋 |
| 長期滞在施設が自施設内に設置されている。 | - はい (はい・いいえ) |
| 長期滞在施設又はこれに準じる施設について別紙22に記載すること。 | |
| (6) 家族等の希望により、24時間面会又は患者の付き添いができる体制を構築していること。 | A はい (はい・いいえ) |
| (7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っていることが望ましい。 | B はい (はい・いいえ) |

別紙1 キャンサーボードの体制及び開催実績

病院名: 大阪市立総合医療センター

開催されたキャンサーボードの総件数: 65

(平成25年7月～11月に開催されたキャンサーボードについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。)

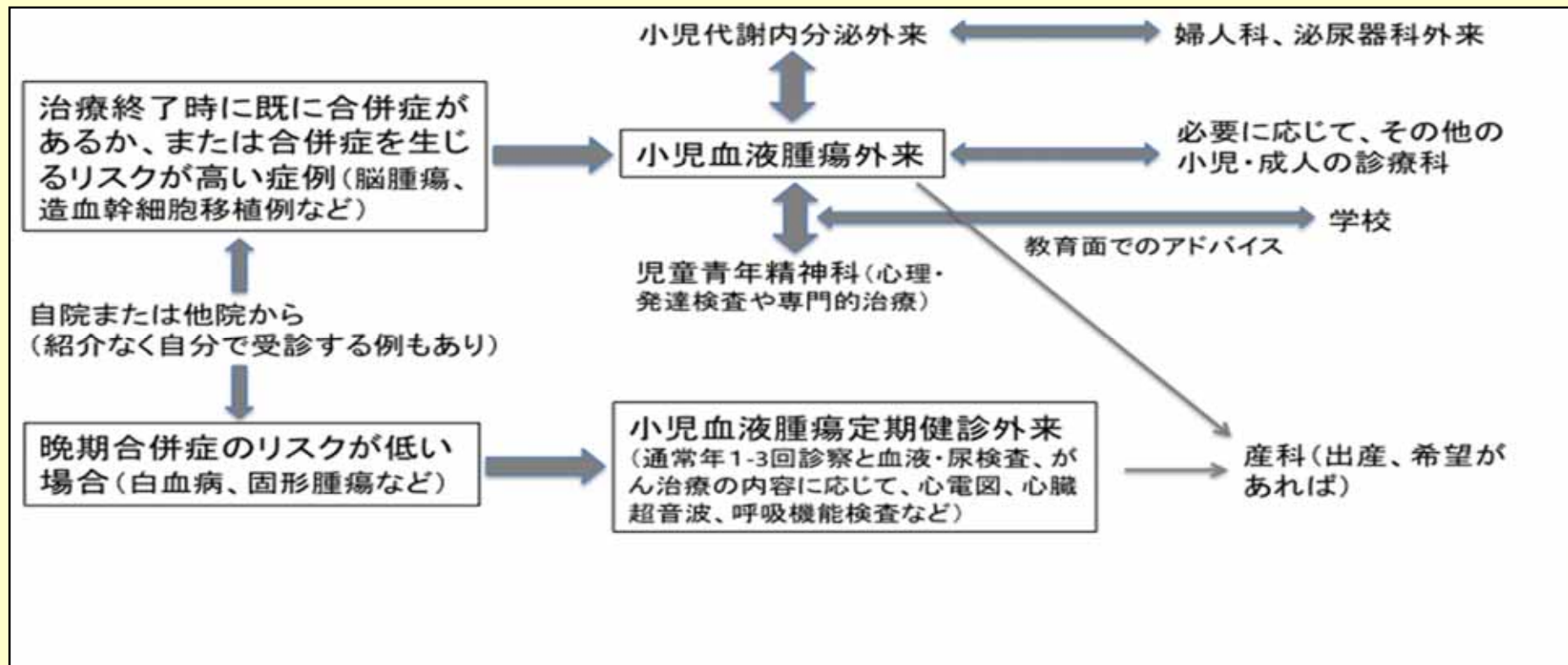
| キャンサーボード名 | | メンバーの専門性・職種 | 開催日又は開催頻度 | 内容 |
|-----------|-------------------|--|-----------|------------------------------------|
| 例 | 小児外科カンファレンス | 小児科部長、小児科医、放射線治療医、小児看護専門看護師、薬剤師 | | 新規治療開始患者の治療方針の決定や経過報告 |
| 1 | 小児がんキャンサーボード | ◎小児血液腫瘍科医、小児外科医、小児脳神経外科医、病理医、放射線治療医、整形外科医、臨床腫瘍科医(成人がん担当) | 月1回 | 小児がん治療の診断、及び治療に関する方針についての検討 |
| 2 | 小児血液腫瘍科多職種カンファレンス | ◎小児血液腫瘍科医、小児緩和ケア医、小児科看護師、がん専門薬剤師、小児がん専従臨床心理士、ホスピタル・プレイススペシャリスト、小児がん専従社会福祉士 | 週1回(月曜日) | 入院患者の治療・ケアの方針について多角的な面から検討 |
| 3 | 小児血液腫瘍科多職種カンファレンス | ◎小児血液腫瘍科医、小児緩和ケア医、がん専門薬剤師、小児がん専従臨床心理士 | 週1回(木曜日) | 入院患者の治療・ケアの方針について多角的な面から検討 |
| 4 | こどもサポートチームカンファレンス | ◎小児緩和ケア医、小児精神科医、小児がん専従臨床心理士、看護師、緩和ケア認定看護師、小児がん専従社会福祉士、ホスピタル・プレイススペシャリスト | 週1回(水曜日) | 入院患者の治療・ケアの方針について緩和ケアの分野で多角的な面から検討 |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |

別紙2 長期にわたり診療するための具体的な診療体制

病院名: 大阪市立総合医療センター

(自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。)

フォローアップ外来(定期健診外来)を設けて、すべて当院で実施している。合併症対応など必要に応じて、関連診療科(小児代謝内分泌科、小児循環器科、児童青年精神科、小児言語科、婦人科、腎臓高血圧内科、泌尿器科など)と共に診療している。当院は総合病院のため、成人に達してもそのままフォローアップを継続している(他の小児系診療科も成人患者が多い)。転居の場合は、近隣の施設を紹介。合併症がなくても最低年1回は受診するように指導している(期限は設けていない)。



別紙3 化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

病院名： 大阪市立総合医療センター

開催された委員会の総件数： 3

(化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。)

| | | |
|----------|-------------------------------|-------------------------------|
| 委員会の名称 | 医療の質向上委員会 がん専門小委員会化学療法レジメン分科会 | |
| 委員会の開催頻度 | 年4回 | |
| 委員会のメンバー | 職種 | 役職 |
| 例 | 医師、看護師、薬剤師 | 腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長 |
| 1 | 医師 | 臨床腫瘍センター部長兼臨床腫瘍科部長(がん薬物療法専門医) |
| 2 | 医師 | 血液内科医長 |
| 3 | 医師 | 小児血液腫瘍科副部長 |
| 4 | 医師 | 消化器内科医長 |
| 5 | 医師 | 消化器外科副部長 |
| 6 | 医師 | 婦人科副部長 |
| 7 | 医師 | 泌尿器科副部長 |
| 8 | 医師 | 整形外科副部長 |
| 9 | 医師 | 乳腺外科部長 |
| 10 | 医師 | 耳鼻いんこう科部長 |

| 委員会のメンバー | 職種 | 役職 |
|----------|-----|------------------------|
| 11 | 医師 | 皮膚科副部長 |
| 12 | 医師 | 小児脳神経外科副部長 |
| 13 | 薬剤師 | 薬剤部副部長 |
| 14 | 薬剤師 | 薬剤部(がん専門薬剤師) |
| 15 | 看護師 | 外来主任看護師(がん化学療法看護認定看護師) |

別紙4 緩和ケアチームの組織・体制

病院名: 大阪市立総合医療センター

緩和ケアチームの総人数: 10

(緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師(常勤であることが望ましい)、緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。)

| 緩和ケアチームの名称 | | 子どもサポートチーム(PPCT) | | |
|------------|-------------------|------------------|---------------|--|
| 職種 | | 常勤/非常勤 | 専門分野 | 資格等 |
| 例 | 医師、看護師、薬剤師 | | 麻酔科、精神科、がん看護 | 緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。 |
| 1 | 医師 | 常勤 | 緩和医療科、小児総合診療科 | カーディフ大学緩和ケア認定医、日本緩和医療学会暫定指導医、日本緩和医療学会代議員 |
| 2 | 医師 | 常勤 | 児童青年精神科 | 緩和ケアの基本研修のための研修会指導者養成研修会修了(精神腫瘍) |
| 3 | 看護師 | 常勤 | がん化学療法 | がん化学療法認定看護師 |
| 4 | 看護師 | 常勤 | 緩和ケア | 緩和ケア認定看護師 |
| 5 | 看護師 | 常勤 | 在宅調整 | |
| 6 | 薬剤師 | 常勤 | 緩和ケア | 日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師 |
| 7 | 臨床心理士 | 常勤 | 小児がんのみを担当 | 臨床心理士資格認定協会認定臨床心理士 |
| 8 | ホスピタル・プレイ・スペシャリスト | 常勤 | | ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(英国)、保育士 |
| 9 | 臨床心理士 | 常勤 | | 臨床心理士資格認定協会認定臨床心理士 |
| 10 | 医療ソーシャルワーカー | 常勤 | | 社会福祉士 |

病院名: 大阪市立総合医療センター

(緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。)

入院中の場合

「子どもサポートチーム相談依頼書」を記載し電子カルテ上で依頼する（患者・家族へ直接介入する時は、主治医より患者・家族へ介入の同意を得ておくこと） 依頼を確認したチーム・メンバーが情報を収集し、サブチーム（ペインチーム 心理的サポートチーム プレイサービスチーム 在宅支援チーム）のリーダーに連絡する。依頼のあったチームリーダーは迅速に病棟訪問し、介入（あるいはコンサルテーションのみの対応）を開始する。介入開始後はオン・ディマン드의対応に加えて、週一回のチームカンファレンス、病棟カンファレンス、チーム回診で継続的にチーム内及び各病棟との情報共有を図る。

当院外来通院中の場合

主治医か子どもサポートチームのメンバーが、小児緩和ケア医の緩和ケア外来（週1回）を予約し、外来受診してもらう。オピオイド投与中の場合は、緩和ケアチーム外来（週3回）に予約するのも可。

他院で治療中の場合

小児血液腫瘍科の初診外来を受診していただき、小児緩和ケア医の緩和ケア外来を予約してもらう。

緩和ケア病棟への入院希望の場合

当院は、小児専門の緩和ケア病床を緩和ケア病棟内に設置している。緩和ケア病棟での治療は緩和医療科と小児血液腫瘍科と子どもサポートチームが合同である。緩和ケア病棟の利用にあたっては、当院治療中であれば直接、小児緩和ケア医に相談する。他院で治療中の場合は、一旦、小児血液腫瘍科へ紹介された後、小児緩和ケア医に相談する。

がん告知時のカウンセリング

チームの臨床心理士and/or大阪府にがんカウンセリング登録している認定看護師が告知に同席し、その後フォローする。

別紙6 緩和ケアチームによるカンファレンスの開催実績

病院名： 大阪市立総合医療センター

開催されたカンファレンスの総件数： 22

(平成25年7月～11月に開催された緩和ケアチームによるカンファレンスの開催実績について記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。)

| 開催日 | カンファレンスの参加者の専門分野・職種(緩和ケアチームのメンバーを除く) 例)小児科部長、小児科医、放射線治療医、小児看護専門看護師、薬剤師 | 検討した小児がん患者 症例数 |
|-----|---|-------------------|
| 1 | 7月3日 小児科病棟看護師長 2名 | 5 |
| 2 | 7月10日 小児科病棟看護師長 2名 | 6 |
| 3 | 7月17日 小児科病棟看護師長 2名 | 4 |
| 4 | 7月24日 (緩和ケアチームメンバーのみ) | 5 |
| 5 | 7月31日 (緩和ケアチームメンバーのみ) | 8 |
| 6 | 8月7日 (緩和ケアチームメンバーのみ) | 4 |
| 7 | 8月14日 小児科病棟看護師長 2名 | 7 |
| 8 | 8月21日 小児科病棟看護師長 1名 | 6 |
| 9 | 8月28日 小児科病棟看護師長 2名、がん化学療法看護認定看護師 1名 | 4 |
| 10 | 9月4日 小児科病棟看護師長 3名、がん化学療法看護認定看護師 1名 | 8 |

| 開催日 | | カンファレンスの参加者の専門分野・職種(緩和ケアチームのメンバーを除く) | 検討した小児がん患者症例数 |
|-----|--------|--------------------------------------|---------------|
| 11 | 9月11日 | 小児科病棟看護師長 1名 | 2 |
| 12 | 9月18日 | がん化学療法看護認定看護師 1名 | 1 |
| 13 | 9月25日 | (緩和ケアチームメンバーのみ) | 7 |
| 14 | 10月2日 | (緩和ケアチームメンバーのみ) | 1 |
| 15 | 10月9日 | 小児科病棟看護師長 2名 | 3 |
| 16 | 10月16日 | がん化学療法看護認定看護師 1名 | 6 |
| 17 | 10月23日 | 小児科病棟看護師長 2名、がん化学療法看護認定看護師 1名 | 8 |
| 18 | 10月30日 | (緩和ケアチームメンバーのみ) | 5 |
| 19 | 11月6日 | 小児科病棟看護師長 1名 | 5 |
| 20 | 11月13日 | (緩和ケアチームメンバーのみ) | 6 |
| 21 | 11月20日 | 小児科病棟看護師長 1名 | 3 |
| 22 | 11月27日 | がん化学療法看護認定看護師 1名 | 12 |
| 23 | | | |
| 24 | | | |
| 25 | | | |

病院名: 大阪市立総合医療センター

| 緩和ケアチームの情報提供の方法 | 実施している場合 ○を記載 | | 具体的に |
|--------------------|---|---------------------|---|
| 院内の見やすい場所に掲示している | ○ | その他の方法で 情報提供している | 学会・研究会で発表 |
| 院内誌、チラシ等で情報提供している | ○ | | |
| ホームページに掲載している | ○ | | |
| アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/gaiyou/iryou/kyoten/kanwa.html | | |
| 地域の広報誌等で情報提供している | ○ | | |
| セカンドオピニオンの情報提供の方法 | 実施している場合 ○を記載 | | 具体的に |
| 院内の見やすい場所に掲示している | ○ | その他の方法で 情報提供している | メディカル・ネット(当センターの医療連携情報誌、毎年作成、全国6,000か所の医療機関へ配布) |
| 院内誌、チラシ等で情報提供している | ○ | | |
| ホームページに掲載している | ○ | | |
| アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/for_patient/senmon/second.html | | |
| 地域の広報誌等で情報提供している | × | | |
| 診療機能・診療実績等の情報提供の方法 | 実施している場合 ○を記載 | | 具体的に |
| 院内の見やすい場所に掲示している | ○ | その他の方法で 情報提供している | メディカル・ネット(当センターの医療連携情報誌、毎年作成、全国6,000か所の医療機関へ配布) |
| 院内誌、チラシ等で情報提供している | ○ | | |
| ホームページに掲載している | ○ | | |
| アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/gaiyou/iryou/shihyo.html | | |
| 地域の広報誌等で情報提供している | ○ | | |

| がん相談支援センターの情報提供の方法 | 実施している場合 ○を記載 | | 具体的に |
|--------------------|---|---------------------|---|
| 院内の見やすい場所に掲示している | ○ | その他の方法で 情報提供している | メディカル・ネット(当センターの医療連携情報誌、毎年作成、全国6,000か所の医療機関へ配布) |
| 院内誌、チラシ等で情報提供している | ○ | | |
| ホームページに掲載している | ○ | | |
| アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/gaiyou/iryoku/kyoten/madoguchi.html | | |
| 地域の広報誌等で情報提供している | ○ | | |

| 臨床研究の情報提供の方法 | 実施している場合 ○を記載 | | 具体的に |
|-------------------|---|---------------------|------|
| 院内の見やすい場所に掲示している | ○ | その他の方法で 情報提供している | |
| 院内誌、チラシ等で情報提供している | ○ | | |
| ホームページに掲載している | ○ | | |
| アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/bumon/chiken/shoukai.html | | |
| 地域の広報誌等で情報提供している | × | | |

| 治験の情報提供の方法 | 実施している場合 ○を記載 | | 具体的に |
|-------------------|---|---------------------|------|
| 院内の見やすい場所に掲示している | ○ | その他の方法で 情報提供している | |
| 院内誌、チラシ等で情報提供している | ○ | | |
| ホームページに掲載している | ○ | | |
| アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/bumon/chiken/shoukai.html | | |
| 地域の広報誌等で情報提供している | × | | |

病院名: 大阪市立総合医療センター

緩和ケア窓口情報

| | | | | |
|--------------------|---|--------|----|--|
| 外来の設置状況 | 設置されています (設置されています・設置されていません) | | | |
| 外来の名称 | ①専門外来(緩和医療科) ②緩和ケアチーム外来 | | | |
| 診療曜日・時間 | 曜日 | ①火・水・木 | 時間 | 火:13時30分～16時00分、水:9時30分～12時00分、木:14時00分～16時30分 |
| | 曜日 | ②平日 | 時間 | 随時 |
| 担当診療科名 | | | | |
| 他の病院で診療中である患者さんの受診 | 受診できません (受診できます・受診できません) | | | |
| 診療の内容・特色 | 小児緩和医療の専門医が専門外来及び緩和ケアチーム外来で診療しています。 | | | |
| 問い合わせ窓口 | 窓口があります (窓口があります・窓口がありません) | | | |
| 窓口名 | がん相談支援センター | | | |
| メッセージ (200字以内) | 「子どもサポートチーム(小児緩和ケアチーム)からのメッセージ」 当センターの子どもサポートチームは緩和医療を専門とする医師、緩和ケアを専門とする看護師をはじめ、児童青年精神科医、臨床心理士、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト、医療ソーシャルワーカー、在宅支援担当看護師で構成される多職種チームです。症状緩和につながるケアの実践や子どもさんだけでなく、ご家族の心理的なサポート、入院・治療・処置に対するストレスを軽減できるような取り組みを行い、よりよく過ごせるような活動を行っています。 | | | |
| 病棟の設置状況 | 設置されています (設置されています・設置されていません) | | | |

セカンドオピニオン窓口情報

| | | | | | | |
|--------------------|----------------------------|--------------|----|--------------|----|--------------|
| 問い合わせ窓口 | 窓口があります (窓口があります・窓口がありません) | | | | | |
| 窓口名 | がん相談支援センター | | | | | |
| 電話番号 | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | 5254・5255 | 直通 | 06-6929-3632 |
| 対応時間 | 曜日 | 月～金曜日 | 時間 | 9時00分～17時00分 | | |
| | 曜日 | | 時間 | 時 分～ 時 分 | | |
| セカンドオピニオンに対応している病名 | 主にがん疾患、心疾患、脳血管疾患 | | | | | |

がん相談支援センター窓口情報

| | | | | |
|--------------------------------|---|--------------|-------|--------------|
| 問い合わせ窓口 | 窓口があります (窓口があります・窓口がありません) | | | |
| 窓口名 | がん相談支援センター | | | |
| 電話番号 | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | 5254・5255 直通 |
| 対応時間 | 曜日 | 月～金曜日 | 時間 | 9時00分～17時00分 |
| | 曜日 | | 時間 | 時 分～ 時 分 |
| 対面相談 | 対応の可否 | 可 | (可・否) | |
| | 個室の有無 | 有 | (有・無) | |
| | 個室の数 | 3 | 室 | |
| 電話相談 | 対応の可否 | 可 | (可・否) | |
| 電話番号 | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | 5254・5255 直通 |
| FAX相談 | 対応の可否 | 否 | (可・否) | |
| 相談用のFAX番号 | 直通 | | | |
| 電子メール相談 | 対応の可否 | 否 | (可・否) | |
| 相談用のアドレス | | | | |
| がん相談支援センターからのメッセージ (200字以内) | <p>当センターでは、がん患者さんとそのご家族の治療上の不安や悩みに対応するため、専任の看護師を配置し、相談者の立場にたって共に考え、より良い方法を見つけるお手伝いをさせていただきます。</p> <p>またがん診療に係わる一般的な医療情報や医療機関に関する情報の収集・提供、地域の病院や診療所との連携の拡大等の取り組みを通じ、患者さんが質の高い医療の提供を受けられるよう努めております。</p> | | | |
| 最も力を注いでいる相談支援の内容 | <p>有意義なセカンドオピニオンを受けていただくために、申し込み時に患者さん、ご家族の思いを受け止め、十分な説明と意思確認を行っています。</p> <p>小児がん患児に対し、復園(幼稚園、保育園)・復学(小・中・高・大学)支援を行っています。入院中から学校関係者を交えてのチームを結成し、カンファレンス等を行って、意志統一を図りながら、スムーズに入院前の生活に戻ることができるよう環境、調整に取り組んでいます。</p> | | | |

先進医療窓口情報

| | | | | |
|---------|----------------------------|--|--------------|-----------|
| 先進医療の実施 | 実施しています (実施しています・実施していません) | | | |
| 第2項先進医療 | 問い合わせ窓口 | 窓口があります (窓口があります・窓口がありません) | | |
| | 窓口名 | がん相談支援センター | | |
| | 技術名 | | | |
| | 電話番号 | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 |
| | | 直通 | | 5254・5255 |
| | 対象となる病名・病状 | | | |
| 第3項先進医療 | 実施件数(2013年4月1日～2013年8月31日) | 0 | 件 | |
| | 問い合わせ窓口 | 窓口があります (窓口があります・窓口がありません) | | |
| | 窓口名 | がん相談支援センター | | |
| | 技術名 | 術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法、ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 | | |
| | 電話番号 | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 |
| | | 直通 | | 5254・5255 |
| | 対象となる病名・病状 | 乳がん、肺がん | | |
| | 実施件数(2013年4月1日～2013年8月31日) | 13 | 件 | |

臨床試験窓口情報

| | | | | |
|---------|----------------------------|--------------|----|--------------|
| 問い合わせ窓口 | 窓口があります (窓口があります・窓口がありません) | | | |
| 窓口名 | がん相談支援センター | | | |
| 電話番号 | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | 5254・5255 |
| | | | 直通 | |
| 対応時間 | 曜日 | 月～金曜日 | 時間 | 9時00分～17時00分 |
| | 曜日 | | 時間 | 時 分～ 時 分 |

治験窓口情報

| | | | | |
|---------|----------------------------|--------------|----|--------------|
| 問い合わせ窓口 | 窓口があります (窓口があります・窓口がありません) | | | |
| 窓口名 | がん相談支援センター | | | |
| 電話番号 | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | 5254・5255 |
| | | | 直通 | |
| 対応時間 | 曜日 | 月～金曜日 | 時間 | 9時00分～17時00分 |
| | 曜日 | | 時間 | 時 分～ 時 分 |

別紙10 小児がん患者及びその家族が語り合うための場の設定状況

病院名: 大阪市立総合医療センター

(小児がん患者の遊びの場(プレイルーム等)やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場(患者サロン等)について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。2枚以内におさめること。)

小児がん患者は、年齢によって学童期以上が対象のすみれ7病棟と乳幼児が対象のさくら7病棟にわかれて入院する。小児がん患者の遊びの場として、それぞれの病棟にプレイルームを設置している。それぞれに年齢に応じた玩具、100冊以上の本や絵本を配置している。プレイルームには専属の保育士、ホスピタル・プレイ・スペシャリストを配置して、遊びを通して、患児の成長発達の支援を行っている。また、それぞれの病棟に院内学級が2教室ずつあり、授業終了後には様々な活動のために解放している。

学童期以上用のすみれ7病棟のプレイルームには、思春期から若年成人を対象としたコーナーを作り、パソコンや電子ピアノ、図書を置き、患者同士が交流できるようソファとテーブルを設置している。

さらに、すみれ7病棟には、AYA世代の患者同士の交流や「学習したい」と願う患者さんに勉強の場を提供するため、平成24年7月より学習室を設置している。学習室には、キャレルデスク(自習机)のほか、ホワイトボード、インターネットが使えるパソコン、電子辞書、CDデッキなどを設置し、学習ボランティアが学習のお手伝いをしている。また、NPO法人の協力を得て「テレビ会議システムを活用した遠隔学習支援ネットでeクラス」で学習の支援も行っている。

各病棟のプレイルームに隣接したデイルームを、患者家族が語り合うための場として提供している。時には患者・家族が保育士や看護師とともにイベントを行ったりしてデイルームを大いに活用している。そのほか、二つの病棟内にはそれぞれ学校の教室が2つずつあり、学校終了後には、自習、子どもたちの集まり、心理士による集団カウンセリングなどに解放している。

5階では、平成25年11月より専従の保育士を配置した小児病棟入患者のきょうだいの預かり保育を実施している。また、今後はその部屋を使って入院中・外来通院中の小児がん患者の交流会や患者家族の交流会も実施していく予定である。また、5階のオープンスペースの緑地や病棟の間にある屋内スペースを運動や様々な活動のために提供している。

ダイルーム



プレイルーム



プレイルーム(思春期～若年成人)



学習室



別紙11 小児がん患者及びその家族が語り合うための場

病院名: 大阪市立総合医療センター

語り合うための場総件数: 5

| 患者さんやご家族が語り合うための場 | | | | | | | |
|-------------------|---------|--|----|---------|---------|----------------|------------|
| 1 | 主催者名 | 当院小児血液腫瘍科 | | 参加対象者 | 病名 | 小児がん | |
| | 問い合わせ窓口 | 小児血液腫瘍科 | | | 院外からの参加 | 参加不可 | (参加可・参加不可) |
| | 電話番号 | | | 活動状況 | 患者・家族 | 患者・家族 | (患者・家族) |
| | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | | | 不定期(年1-2回程度開催) | |
| | 直通 | | | 病院職員の関与 | あり | (あり・なし) | |
| | 主な活動状況 | 疾患についての説明(例:神経芽腫、造血幹細胞移植など)、血液検査の見方など | | | | | |
| 2 | 主催者名 | エス・ビューロー(NPOの患者会) | | 参加対象者 | 病名 | 小児がん | |
| | 問い合わせ窓口 | 代表理事 安道照子 | | | 院外からの参加 | 参加可 | (参加可・参加不可) |
| | 電話番号 | | | 活動状況 | 患者・家族 | 患者・家族 | (患者・家族) |
| | 代表 | 072-622-6730 | 内線 | | | 年1回 | |
| | 直通 | 072-622-6730 | | 病院職員の関与 | あり | (あり・なし) | |
| | 主な活動状況 | 小児がんに関する講演、勉強会、患者治療相談、患者の意見聴取のためのシンポジウムなどを行っている。 | | | | | |
| 3 | 主催者名 | 当院小児血液腫瘍科 | | 参加対象者 | 病名 | 小児がん | |
| | 問い合わせ窓口 | 小児血液腫瘍科 | | | 院外からの参加 | 参加不可 | (参加可・参加不可) |
| | 電話番号 | | | 活動状況 | 患者・家族 | 家族のみ | (患者・家族) |
| | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | | | 月1回 | |
| | 直通 | | | 病院職員の関与 | あり | (あり・なし) | |
| | 主な活動状況 | 茶話会、入院生活に対する想いなどを語る。 | | | | | |
| 4 | 主催者名 | 当院小児血液腫瘍科 | | 参加対象者 | 病名 | 小児がん | |
| | 問い合わせ窓口 | 小児血液腫瘍科臨床心理士 | | | 院外からの参加 | 参加不可 | (参加可・参加不可) |
| | 電話番号 | | | 活動状況 | 患者・家族 | 患者のみ | (患者・家族) |
| | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | | | 週1回 | |
| | 直通 | | | 病院職員の関与 | あり | (あり・なし) | |
| | 主な活動状況 | 10代の会、遊びやおしゃべりをしながらピア・サポートを行う場 | | | | | |

別紙11 小児がん患者及びその家族が語り合うための場

| | | | | | | | |
|---|---------|--------------------|----|---------|---------|-----------------|------------|
| 5 | 主催者名 | 当院 | | 参加対象者 | 病名 | 疾患(小児に関する疾患も含む) | |
| | 問い合わせ窓口 | 患者支援センター | | | 院外からの参加 | 参加可 | (参加可・参加不可) |
| | 電話番号 | | | | 患者・家族 | 患者・家族 | (患者・家族) |
| | 代表 | 06-6929-1221 | 内線 | 活動状況 | 年4回 | | |
| | 直通 | 06-6929-3643 | | 病院職員の関与 | あり | (あり・なし) | |
| | 主な活動状況 | 小児医療センター講演会・市民医学講座 | | | | | |

| 院内の図書室や図書室以外の場所に図書等が設置されている情報 | | | | |
|-------------------------------|---|----------------|---------|----------|
| | 院内図書室 | | 院内図書室以外 | |
| 名称 | やわらぎ空間 さくら | | | |
| 電話番号 | 代表 | 06-6929-1221 | 代表 | |
| | 内線 | 5951 | 内線 | |
| | 直通 | | 直通 | |
| 開室時間 | 曜日 | 月～金(祝日、年末年始除く) | 曜日 | |
| | 時間 | 10時00分～16時00分 | 時間 | 時 分～ 時 分 |
| | 曜日 | | 曜日 | |
| | 時間 | 時 分～ 時 分 | 時間 | 時 分～ 時 分 |
| ホームページ | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/gaiyou/shisetsu/to-shokan.html | | | |
| 利用対象者 | 貸出は入院患者のみ、閲覧は制限なし | | | |
| 利用可能な資料 | 医療系の図書、雑誌、冊子、DVD | | | |
| 利用可能な機器 | インターネット接続可能なパソコン | | | |
| 対応職員の職種 | 事務職 | | | |
| ピアサポーターによる対応 | 未実施 | | | |

(実施・未実施)

別紙12 小児がん患者及びその家族を対象とした小児がんに関する勉強会等の開催実績

病院名: 大阪市立総合医療センター

開催された勉強会等の総件数: 2

(患者や家族等を対象とした小児がんに関する勉強会等の開催実績について記載すること。別紙18の記載内容と一部重複しても構いません。)

| 名称 | 主催者 例 〇〇病院、〇〇の会 | 参加対象者 例 患者、家族等 | 内容 | 開催頻度 例 年に3回、週に1回、不定期 | |
|----|-----------------------------|--|-----------|--|---------|
| 1 | 大阪市立総合医療センター 小児医療センター講演会 | 大阪市立総合医療センター 小児医療センター | 市民・患者・家族 | 小児がんに対する検診や治療法などについての専門医による講演 (平成25年6月15日に開催) | 1年に1回程度 |
| 2 | 小児がん・脳腫瘍全国大会 | NPO法人 エス・ビューロー・ 当院・日本小児脳腫瘍コン ソーシウム | 患者・家族・支援者 | 毎年、夏に2日または3日間連続の講演会、相談会を小児血液腫瘍科と 共催で実施している。今年は8月3、4日の2日間神戸市で開催した。 | 1年に1回 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |

小児脳腫瘍

病院名: 大阪市立総合医療センター

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

| 当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数 | | | | 治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成24年1月1日~12月31日 | | | | | | 各診療科における 当該疾患の治療の 特色・患者さんへの メッセージなど | 当該疾患の治療に関する内容が 掲載されているページ | | | | | |
|----------------------------|---------|-------------------------------------|----|---|----------|-----------------|------|-----------|---|--|------------------------------|----------|---|------|------|------|
| 主な診療科名 (5診療科まで) | 医師数 | 当該疾 患を専 門とし て いる医 師数 | 手術 | 化学療法 | 放射線療法 | | | | ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載して ください ※アドレスは、手入力せずにホーム ページからコピーしてください | | 掲載されている内容 | | | | | |
| | | | | | 体外 照射 | 定位 放射線 療法 | IMRT | 小線源 治療 | | | 治療 内容 | 治療 実績 | 医師の 専門 分野 | | | |
| 1 | 小児脳神経外科 | 3 | 3 | 状況 | ○ | × | × | ○ | × | × | 当センターでは、脳腫瘍のトータルケアが可能です。 | タイトル | 小児脳神経外科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | あり | なし | なし | あり | なし | なし | | アドレス | http://www.hyosuin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/ryounei/n_e.html | | | |
| 2 | 小児血液腫瘍科 | 7 | 7 | 状況 | × | ○ | × | × | × | × | 思春期~若年成人にも力を入れています。 | タイトル | 小児血液腫瘍科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | なし | あり | なし | なし | なし | なし | | アドレス | http://www.hyosuin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/ryounei/n_e.html | | | |
| 3 | 放射線腫瘍科 | 4 | 4 | 状況 | × | × | ○ | ○ | × | × | | タイトル | 放射線腫瘍科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | なし | なし | あり | あり | なし | なし | | アドレス | http://www.hyosuin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/ryounei/n_e.html | | | |
| 4 | | | | 状況 | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | アドレス | | | | |
| 5 | | | | 状況 | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | アドレス | | | | |

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

| 当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数 | | | | 治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成24年1月1日~12月31日 | | | | | | | 各診療科における 当該疾患の治療の 特色・患者さんへの メッセージなど | 当該疾患の治療に関する内容が 掲載されているページ | | | | | | |
|----------------------------|---------|-------------------------------------|----|---|------------------|------------------|-----|----------|------|-----------|--|---|-----------|----------|-----------------|------|---|------|
| 主な診療科名 (5診療科まで) | 医師数 | 当該疾 患を専 門とし て いる医 師数 | 手術 | 冷 凍 凝 固 術 | 光 凝 固 術 | 化 学 療 法 | 眼動注 | 放射線療法 | | | | ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載して ください ※アドレスは、手入力せずにホーム ページからコピーしてください | 掲載されている内容 | | | | | |
| | | | | | | | | 体外 照射 | IMRT | 小線源 治療 | | | 治療 内容 | 治療 実績 | 医師の 専門 分野 | | | |
| 1 | 小児眼科 | 3 | 3 | 状況 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | タイトル | 小児眼科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | あり | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/syouin/ganka.html | |
| 2 | 小児血液腫瘍科 | 7 | 7 | 状況 | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | タイトル | 小児血液腫瘍科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | なし | なし | なし | あり | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/syouin/k_s.html | |
| 3 | 放射線腫瘍科 | 4 | 4 | 状況 | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × | タイトル | 放射線腫瘍科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | アドレス | http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/rinayou/h_s.html | |
| 4 | | | | 状況 | | | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | | | | | アドレス | | |
| 5 | | | | 状況 | | | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | | | | | アドレス | | |

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

| 当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数 | | | | 治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成24年1月1日～12月31日 | | | | | | | 各診療科における 当該疾患の治療の 特色・患者さんへの メッセージなど | 当該疾患の治療に関する内容が 掲載されているページ | | | | | |
|----------------------------|---------|---------------------|----|---|-------|-----|------|------|-------|-------|--|---|-----------|---------|---------|------|------|
| 主な診療科名 (5診療科まで) | 医師数 | 当該疾患を専門として いる医師数 | 状況 | 手術 | | | | 化学療法 | 放射線療法 | | | ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください | 掲載されている内容 | | | | |
| | | | | 切・離断術 | 患肢温存術 | 再建術 | 骨移植術 | | 体外照射 | 小線源治療 | | | 治療内容 | 治療実績 | 医師の専門分野 | | |
| 1 | 整形外科 | 14 | 1 | 状況 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | 整形外科 | タイトル | 整形外科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | あり | あり | あり | あり | なし | なし | なし | | なし | なし | なし | なし | なし |
| 2 | 小児血液腫瘍科 | 7 | 7 | 状況 | × | × | × | × | ○ | × | × | 小児血液腫瘍科 | タイトル | 小児血液腫瘍科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | なし | なし | なし | なし | あり | なし | なし | | なし | なし | なし | なし | なし |
| 3 | 放射線腫瘍科 | 4 | 4 | 状況 | × | × | × | × | × | ○ | ○ | 放射線腫瘍科 | タイトル | 放射線腫瘍科 | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | なし | なし | なし | なし | なし | なし | なし | | なし | なし | なし | なし | なし |
| 4 | | | | 状況 | | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | 状況 | | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | | | | | | |

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

| 当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数 | | | | 治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績(あり/なし) ※平成24年1月1日~12月31日 | | | | 各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど | 当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ | | | |
|------------------------|---------|-----------------|----|---|-------|-------|--|----------------------------------|--|------|---------|------|
| 主な診療科名 (5診療科まで) | 医師数 | 当該疾患を専門としている医師数 | 手術 | 化学療法 | 放射線療法 | | ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずホームページからコピーしてください | | 掲載されている内容 | | | |
| | | | | | 体外照射 | 小線源治療 | | | 治療内容 | 治療実績 | 医師の専門分野 | |
| 1 | 小児外科 | 6 | 6 | 状況 | ○ | × | × | × | タイトル 小児外科 アドレス http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/gyouin/goka.html | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | あり | なし | なし | なし | | | | |
| 2 | 小児血液腫瘍科 | 7 | 7 | 状況 | × | ○ | × | × | タイトル 小児血液腫瘍科 アドレス http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/gyouin/k.html | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | なし | あり | なし | なし | | | | |
| 3 | 放射線腫瘍科 | 4 | 4 | 状況 | × | × | ○ | ○ | タイトル 放射線腫瘍科 アドレス http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/ryouin/h.html | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | なし | なし | あり | なし | | | | |
| 4 | 小児脳神経外科 | 3 | 3 | 状況 | ○ | × | × | × | タイトル 小児脳神経外科 アドレス http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/gyouin/n_g.html | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | あり | なし | なし | なし | | | | |
| 5 | 小児耳鼻咽喉科 | 4 | 4 | 状況 | ○ | × | × | × | タイトル 小児耳鼻咽喉科 アドレス http://www.byouin.city.osaka.lg.jp/ocgh/department/gyouin/j.html | 掲載あり | 掲載あり | 掲載あり |
| | | | | 実績 | あり | なし | なし | なし | | | | |

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:実施/×:未実施)

※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

| 当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数 | | | | 治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成24年1月1日～12月31日 | | | | | | 各診療科における 当該疾患の治療の 特色・患者さんへの メッセージなど | 当該疾患の治療に関する内容が 掲載されているページ | | | | | |
|----------------------------|---------|-------------------------------------|--------|---|----------------------------|---------------------------|---------------------------------|----------|----------|--|---|-----------|---|-----------------|----------|----------|
| 主な診療科名 (5診療科まで) | 医師数 | 当該疾 患を専 門とし て いる医 師数 | 状 況 | 移植 | | | 放射線療法 | | | | ページのタイトルとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載して ください ※アドレスは、手入力せずにホーム ページからコピーしてください | 掲載されている内容 | | | | |
| | | | | 化学 療法 | 自家 末梢 血幹 細胞 移植 | 血縁者間 同種 造血幹 細胞移植 | 非血縁者間 同種骨髄移植 または臍帯血移 植 | 体外 照射 | 全身 照射 | | | 治療 内容 | 治療 実績 | 医師の 専門 分野 | | |
| 1 | 小児血液腫瘍科 | 7 | 7 | 状況 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | HLAが合わない移植 やミニ移植に積極的に 取り組んでいます。 | タイトル | 小児血液腫瘍科 | 掲載 あり | 掲載 あり | 掲載 あり |
| | | | | 実績 | あり | あり | あり | あり | なし | なし | | アドレス | http://www.hyogo-city.osaka.lg.jp/ocgh/department/kyoushi/k_s.html | | | |
| 2 | 放射線腫瘍科 | 4 | 4 | 状況 | × | × | × | × | ○ | ○ | | タイトル | 放射線腫瘍科 | 掲載 あり | 掲載 あり | 掲載 あり |
| | | | | 実績 | なし | なし | なし | なし | あり | あり | | アドレス | http://www.hyogo-city.osaka.lg.jp/ocgh/department/inyou/h_s.html | | | |
| 3 | | | | 状況 | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | アドレス | | | | |
| 4 | | | | 状況 | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | アドレス | | | | |
| 5 | | | | 状況 | | | | | | | | タイトル | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | | | | アドレス | | | | |

病院名: 大阪市立総合医療センター

| | 平成22年(平成22年1~12月) 診断例(※) | 平成23年(平成23年1~12月) 診断例(※) | 平成24年(平成24年1~12月) 診断例(※) |
|----------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 造血器腫瘍合計 | 17 | 23 | 38 |
| ALL | 11 | 9 | 17 |
| AML | 2 | 5 | 7 |
| まれな白血病 | 1 | 0 | 1 |
| MDS/MPDのうちCML | 0 | 0 | 3 |
| MDS/MPDのうちCMLを除く | 1 | 4 | 3 |
| Non-Hodgkin Lymphoma | 0 | 3 | 7 |
| Hodgkin Lymphoma | 1 | 1 | 0 |
| その他のリンパ増殖性疾患 | 0 | 0 | 0 |
| 組織球症(HLH) | 0 | 1 | 0 |
| 組織球症(LCH) | 1 | 0 | 0 |
| その他の組織球症 | 0 | 0 | 0 |
| その他の造血器腫瘍 | 0 | 0 | 0 |
| Down症TAM 登録 | 0 | 0 | 0 |
| 固形腫瘍合計 | 33 | 24 | 48 |
| 神経芽腫瘍群 | 3 | 3 | 5 |
| 網膜芽腫 | 0 | 2 | 3 |
| 腎腫瘍 | 0 | 1 | 1 |
| 肝腫瘍 | 3 | 0 | 1 |
| 骨腫瘍 | 1 | 0 | 1 |
| 軟部腫瘍 | 3 | 2 | 2 |
| 胚細胞腫瘍 | 2 | 1 | 4 |
| 脳・脊髄腫瘍 | 19 | 15 | 27 |
| その他 (診断名も記載すること) | 2(不明がん、胃がん) | 0 | 4(下垂体腫瘍、胸膜肺芽腫、頭蓋咽頭腫、腹膜末梢性神経外胚葉腫瘍) |

※18歳以下の初発診療例とする。セカンドオピニオンは除く。

別紙15 小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況

病院名： 大阪市立総合医療センター

開催されたカンファレンス等の総件数： 14

(平成25年1月～11月の医療従事者等を対象とした小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況について記載すること。)

| 開催年月日 | | 名称 | 参加対象者 (自施設外の者も参加可能であればその旨記載すること。) | 内容 |
|-------|--------------------|--------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 | 平成25年2月1日 (木) | 小児系外来看護師勉強会 | 院内の看護師 | B前駆細胞型急性リンパ性白血病と化学療法 |
| 2 | 平成25年2月8日 (金) | 小児がんカンファレンス | 当院のほか、大阪府、兵庫県、滋賀県の小児がん診療施設(外部参加可) | 各施設の小児がん症例の検討会 |
| 3 | 平成25年2月16日 (土) | 近畿小児がん研究会 | 近畿の医師、看護師、患者とその家族 | 小児がんの研究会(医師、看護師)、患者とその家族との合同シンポジウム |
| 4 | 平成25年5月31日 (金) | 小児医療センターセミナー | 当院小児医療センタースタッフ | 「小児血液腫瘍疾患の初期診療」に関するセミナー |
| 5 | 平成25年8月30日 (金) | 小児内科系病棟看護師勉強会 | 院内の看護師 | 造血幹細胞移植看護の勉強会(1) |
| 6 | 平成25年9月13日 (金) | 小児医療センターレクチャー(CMC Grand Round) | 小児内科系レジデント | 小児急性リンパ性白血病 |
| 7 | 平成25年9月14日 (土) | 小児緩和ケアチームカンファレンス | 全国の小児緩和ケア従事者 | 全国の小児緩和ケアに従事する医療従事者が共に緩和ケアを学ぶカンファレンス |
| 8 | 平成25年9月26日 (木) | 小児科病棟レクチャー | 当院小児医療センタースタッフ | 「移植後急性期の治療とケア」についてのセミナー |
| 9 | 平成25年10月30日 (水) | 造血幹細胞移植看護勉強会 | 院内の看護師 | 造血幹細胞移植に関わる看護師が専門的知識を習得し、看護の質の向上をめざす |

別紙15 小児がんに関するカンファレンスや勉強会等の開催状況

| | | | | |
|----|--------------------|---------------------|-----------------------------------|--|
| 10 | 平成25年11月7日 (木) | がんサージカルボード | 二次医療圏医療従事者 | 「COGミーティング」に関する小児血液腫瘍科医によるセミナー |
| 11 | 平成25年11月9日 (土) | 小児がんカンファレンス | 当院のほか、大阪府、兵庫県、滋賀県の小児がん診療施設(外部参加可) | 各施設の小児がん症例の検討会 |
| 12 | 平成25年11月9日 (土) | 大阪市立総合医療センター学術講演会 | 二次医療圏医療従事者 | 「青年と若年成人のがん」の講演 |
| 13 | 平成25年11月21日 (木) | 大阪市立大学・市立病院小児科合同研究会 | 大阪市立大学、大阪市立病院勤務医とOB | 小児脳腫瘍治療についての講演 |
| 14 | 毎週金曜日 | 小児血液腫瘍レジデント勉強会 | 小児血液腫瘍科レジデント・ローテーター | 「Childhood Leukemias (3rd ed. Ching-Hon Pui 編)」の内容解説 |
| 15 | | | | |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |

別紙16 小児がんに関する研修プログラムの状況

病院名: 大阪市立総合医療センター

プログラムの総件数: 4

| プログラム名 | 期間 | 対象者 | 受け入れ人数 | | | | | H21年度以降のプログラム修了者 | H21年度以降プログラム修了者の現在の勤務先 | | | | プログラムの特徴 | |
|--------------------|---------|--------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|------------------------|----------|----------|-------------------|----------|--|
| | 例 2年 | 例 医師卒後 〇年～〇年 | H21 年度 | H22 年度 | H23 年度 | H24 年度 | H25 年度 | | 自施設 | 自施設以外 | | | | |
| | | | | | | | | | | 大学 病院 | 小児 病院 | それ以 外の総 合病院 | | その他 |
| 1 小児総合診療コース | 3ヶ月 | 医師卒後2-3年 | 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 18 | 15 | 1 | 0 | 0 | 2 | 小児科後期研修の一環 血液腫瘍疾患の急性期や緊急対応が可能な小児科医を育成する。 |
| 2 小児総合診療コース | 1年 | 医師卒後4年 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 専門コースの準備のためのステップ |
| 3 小児血液・がん専門医育成コース | 3年 | 医師卒後5-7年 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 小児血液・がん専門医育成のためのプログラム 主治医として、かつ前期レジデントの指導者として教育を受ける。 |
| 4 小児がん・緩和ケア短期研修コース | 1年 | 医師卒後2年以降 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 多施設で小児がん・血液専門医の研修を受けている小児科医に対し、自施設では経験が不足する分野(脳腫瘍医療、ハプロ移植、小児緩和ケアなど)を補うためのプログラム |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | |

病院名：大阪市立総合医療センター

(がん相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。)

がん相談支援センターの情報

| | | | |
|-----------------|-------|------------|-----------|
| がん相談支援センターの名称 | | がん相談支援センター | |
| がん相談支援センターのメンバー | | | |
| | 職種 | 常勤／非常勤 | 相談業務の経験年数 |
| 1 | 看護師 | 常勤 | 7年 |
| 2 | 看護師 | 常勤 | 4年 |
| 3 | 看護師 | 常勤 | 3年 |
| 4 | 社会福祉士 | 常勤 | 4年 |
| 5 | 事務 | 常勤 | 2年 |
| 6 | 事務 | 常勤 | 1年 |
| 7 | 事務 | 常勤 | 1年 |
| 8 | 社会福祉士 | 常勤 | 1年 |
| 9 | 看護師 | 常勤 | 2年 |
| 10 | 看護師 | 常勤 | 1年 |
| 相談件数 | | 299 | 件 |

地域の患者会の情報

| | |
|--------------|------------|
| 情報提供可能な患者会の数 | 8件 |
| 参加対象の疾患名 | 小児がん、小児脳腫瘍 |

別紙18 小児がん患者団体との連携協力

病院名: 大阪市立総合医療センター

団体総件数: 4

(小児がん患者団体との連携協力(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。別紙12の記載内容と一部重複しても構いません。)

| 小児がん患者団体 | | | 具体的な連携協力の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。) |
|----------|----------------------|-----------|--|
| 団体名 | 団体の参加対象者 | | |
| 1 | NPO法人 エス・ビューロー | 患者・家族・支援者 | 毎年、夏に2日または3日間連続の講演会、相談会を小児血液腫瘍科と共催で実施している。今年は8月3、4日の2日間神戸市で開催した。 |
| 2 | NPO法人 エス・ビューロー | 患者・家族・支援者 | 小児がん経験者の就労、復学支援。ビリーブメントケア |
| 3 | NPO法人シャインオンキッズ | 患者家族・支援者 | ビーズオブカレッジプログラムの提供 |
| 4 | 一般社団法人子どものホスピスプロジェクト | 患者家族・支援者 | 治療中の子どもたちに対する院外レクリエーションの提供。ビリーブメントケア |
| 5 | しぶたね | 患者家族・支援者 | 入院中患者のきょうだいの預かり保育 |
| 6 | クリニックラウン | 支援者 | 月2回のクリニックラウンの病棟訪問 |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |

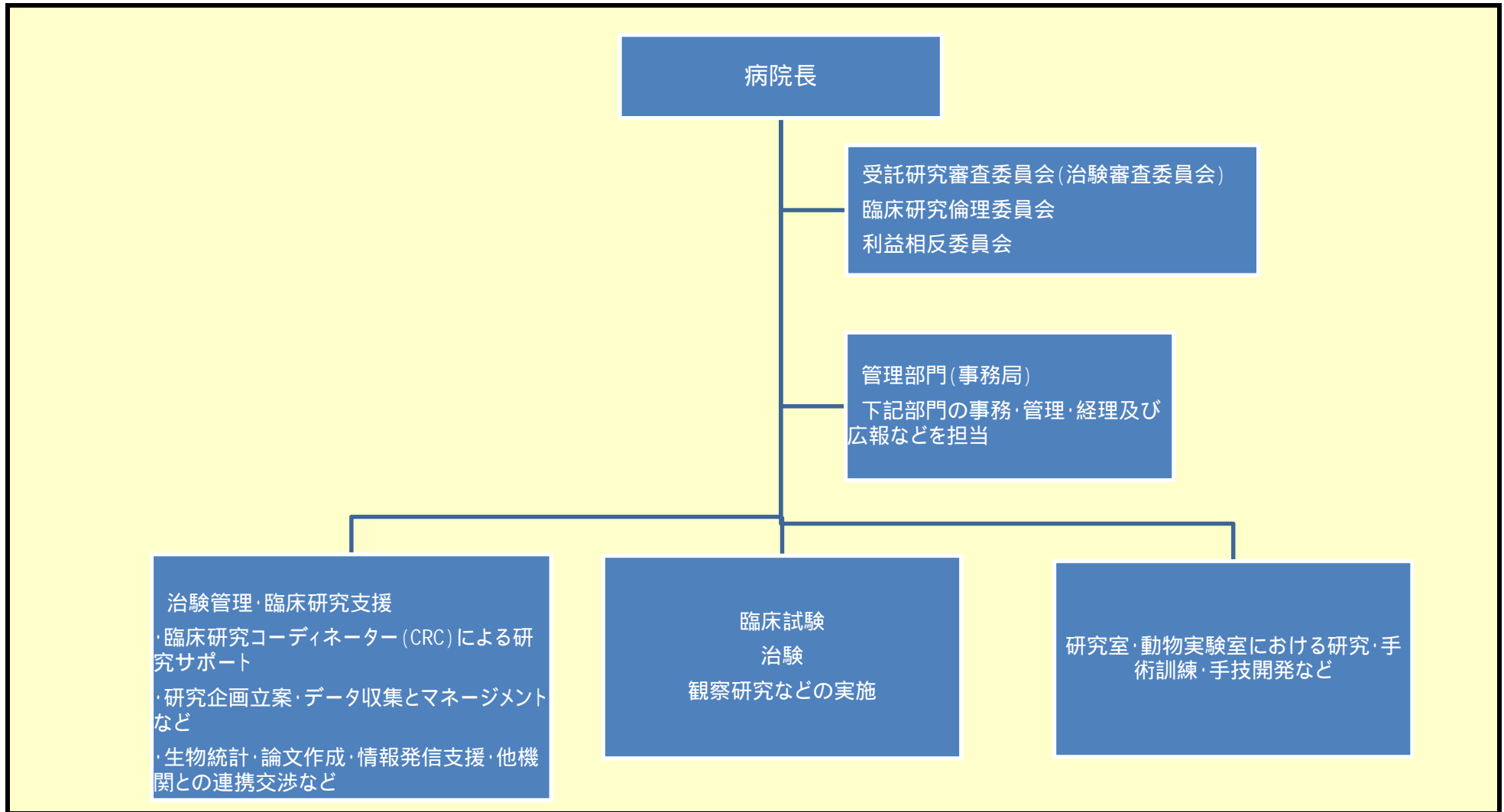
別紙19 臨床研究を支援する専門の部署の組織・体制

病院名: 大阪市立総合医療センター

(臨床研究を支援する専門の部署について、名称、組織について記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。1枚におさめること。)

部署の名称 臨床研究センター

部署の組織図



別紙20 臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

病院名: 大阪市立総合医療センター

各部門のメンバー(個人情報に記載しないよう注意すること)

メンバー総人数: 23

| 各部門名 | | 各部門のメンバーの専門性・職種 |
|------|---------------------------------|---|
| 例 | 事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室 | 薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジェ、生物統計家、事務担当 |
| 1 | 臨床研究センター統括 | 医師(臨床研究センター部長、腎センター部長、総合診療科部長兼務) 1名 |
| 2 | 治験管理室統括 | 薬事専門家(薬剤師)2名、CRCマネージャー(検査技師)1名、事務担当1名 |
| 3 | 管理部門(出納管理、委員会事務局) | 事務担当 2名、委託職員 1名 |
| 4 | 臨床研究コーディネーター部門 | CRC(薬剤師、看護師、管理栄養士) 3名、データ入力補助 4名 |
| 5 | 付属研究室、遺伝子診療部 | 医師(臨床研究センター副部長、遺伝子診療部長、小児代謝・内分泌内科部長兼務) 1名 検査助手(臨床検査技師) 4名 |
| 6 | 付属動物実験室 | 医師(臨床研究センター副部長、泌尿器科副部長兼務) 1名 獣医師(委託職員) 1名 実験助手(委託職員:実験動物技術者) 1名 |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | | |
| 10 | | |

別紙21 臨床研究の実施状況

病院名: 大阪市立総合医療センター

臨床研究の実施総件数: 20

(平成20年1月以降の臨床研究の実施状況について記載すること)

| 試験公開年月 | 疾患名 | 試験名 (倫理審査で承認を得ていたり、その他対外的な申請に用いた試験名がある場合、その試験名を正式なものとして、この欄に入力) | 研究代表者 所属 | 実施診療科 | 目標症例数 (すでに募集を終了した試験、試験が終了している場合は実際の登録数) | 進捗状況 (募集前、一般募集中、限定募集中、参加者募集中断、参加者募集終了-試験継続中、試験中止、試験終了) | 多施設との協力について (JPLSGなど臨床研究グループが関与している場合はその旨記載すること) |
|--------|--------------------------------|--|-------------------------------|---------|--|---|---|
| 1 | 平成25年4月 神経芽腫 | 神経芽腫ハイリスクに対するCH14.18(抗GD2抗体)維持療法 | 原 純一 大阪市立医療センター 小児血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 当院10例 | 一般募集中 | 医師主導治験 治験推進研究事業 (日本医師会) |
| 2 | 平成25年1月 小児固形がん | 小児がんに対するがんペプチドカクテルワクチン療法の第1 相試験 | 国立がん研究センター東病院 中面哲也 | 小児血液腫瘍科 | 当院4例 | 一般募集中 | 医師主導治験 厚生労働省科学研究費補助金 数施設 |
| 3 | 平成25年1月 小児固形腫瘍 | 治療抵抗性の小児固形腫瘍に対するテムシロリムス投与のパイロット試験 | 原 純一 大阪市立医療センター 小児血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 10例 | 一般募集中 | 単施設 |
| 4 | 平成25年1月 治療抵抗性の小児高悪性度グリオーマ | 治療抵抗性の小児高悪性度グリオーマに対するセツキシマブとビノレルビン併用療法のパイロット試験 | 岡田恵子 大阪市立医療センター 小児血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 10例 | 一般募集中 | 単施設 |
| 5 | 平成24年10月 急性リンパ性白血病・悪性リンパ腫など | 大量メトトレキサート療法時に生じるメトトレキサート排泄遅延に対するのグルカルピダーゼの有効性・安全性試験 | 河本 浩 独立行政法人国立がん研究センター小児科 | 小児血液腫瘍科 | 当院1例 | 一般募集中 | 医師主導治験 治験推進研究事業 (日本医師会) |
| 6 | 平成24年7月 神経芽腫 | 再発性小児神経芽腫に対するソラフェニブ単剤投与のパイロット試験 | 原 純一 大阪市立医療センター 小児血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 当院4例 | 参加者募集中断 | 単施設 |
| 7 | 平成24年5月 小児急性骨髄性白血病 | ダウン症候群に発症した小児急性骨髄性白血病の微小残存病変検出の実施可能性とその有用性を探索するパイロット試験(AML-D11) | 多賀崇 滋賀医科大学医学部小児科 | 小児血液腫瘍科 | 50例 | 一般募集中 | JPLSG |
| 8 | 平成24年1月 急性リンパ性白血病 | 小児および若年成人におけるT細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第II相臨床試験(JPLSG ALL-T11/JALSG T-ALL-211-U ALL-T11) | 渡辺 新 中通総合病院 小児科 | 小児血液腫瘍科 | 当院1例 | 一般募集中 | JPLSG |

別紙21 臨床研究の実施状況

| | | | | | | | | |
|----|----------|------------------|--|------------------------------------|---------|--|---------------|----------------------|
| 9 | 平成24年1月 | 急性リンパ性白血病 | 小児難治性T細胞性急性リンパ性白血病に対するネラピン、フルダラビン、エトポシドを用いた寛解導入療法第I/II相臨床試験(JPLSG ALL-RT11) | 熊本忠史 聖路加国際病院 血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 第I相臨床試験 6~18例 第II相臨床試験 22~25例 | 一般募集中 | JPLSG |
| 10 | 平成23年12月 | 急性リンパ性白血病 | 乳児期発症の急性リンパ性白血病に対するリスク層別化学治療の有効性に関する多施設共同第II相臨床試験(MLL-10) | 富澤大輔 東京医科歯科大学医学部 附属病院 小児科 | 小児血液腫瘍科 | 低リスク 15例 中間リスク 20例 高リスク 35例 | 一般募集中 | JPLSG |
| 11 | 平成23年7月 | 若年性骨髄単球性白血病 | 若年性骨髄単球性白血病(JMML)に対する静注用Bu+Flu+L-PAM前処置による同種造血幹細胞移植第II相臨床試験 | 真部 淳 聖路加国際病院 小児科 | 小児血液腫瘍科 | 43例 | 一般募集中 | JPLSG |
| 12 | 平成23年6月 | 固形がん | 小児固形がんに対するHLA-A24およびA2結合性Glypican-3(GPC3)由来ペプチドワクチン療法の臨床第I相試験 | 国立がん研究センター東病院 中面哲也 | 小児血液腫瘍科 | 6-12例 | 一般募集中 | 厚生労働省科学研究費補助金 多施設 |
| 13 | 平成23年1月 | 小児悪性腫瘍 | ONO-7847 小児国内臨床試験 | 小野薬品 | 小児血液腫瘍科 | | 試験終了 | 企業治験 |
| 14 | 平成22年3月 | 固形がん | 再発小児固形腫瘍に対する低侵襲性外来治療ビノレルピン+シクロホスファミド(VNR+CY)対テモゾロミド+エトポシド(TMZ+VP)ランダム化第II相試験 | 牧本 敦 国立がん研究センター中央病院小児科 | 小児血液腫瘍科 | 20例 | 試験終了 | 厚生労働省科学研究費補助金 多施設 |
| 15 | 平成21年7月 | 頭蓋内非ジャーミノーマ胚細胞腫瘍 | 頭蓋内非ジャーミノーマ胚細胞腫瘍(高リスク胚細胞腫)に対する強化化学療法 | 小阪嘉之 兵庫県立こども病院 血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 20例 | 一般募集中 | 日本小児脳腫瘍コンソーシアム |
| 16 | 平成21年7月 | 頭蓋内ジャーミノーマ | 頭蓋内ジャーミノーマ(低/中間リスク胚細胞腫瘍)に対する化学療法 | 小阪嘉之 兵庫県立こども病院 血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 50例 | 一般募集中 | 日本小児脳腫瘍コンソーシアム |
| 17 | 平成21年5月 | 神経芽腫 | IDRF(Image Defined RiskFactors)に基づく手術適応時期の決定と、段階的に強度を高める化学療法による、神経芽腫中間リスク群に対する第II相臨床試験 | 家原知子 京都府立医科大学 小児科 | 小児血液腫瘍科 | 73例 | 一般募集中 | JNBSG |
| 18 | 平成21年2月 | 難治性/再発小児がん | 難治性/再発小児がんを対象としたBevacizumab+Irinotecan併用療法のpilot試験 | 原 純一 大阪市立医療センター 小児血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 当院11例 | 試験終了 | 単施設 |
| 19 | 平成20年11月 | 小児がん | WT1ペプチドを用いた小児がんに対する免疫療法の第I/II相臨床試験 | 原 純一 大阪市立医療センター 小児血液腫瘍科 | 小児血液腫瘍科 | 20例 | 試験終了 | 単施設 |
| 20 | 平成20年3月 | 再発小児固形腫瘍 | 再発小児固形腫瘍に対するトポテカンとイホスファミド併用療法の第I/II相臨床試験 | 牧本 敦 国立がん研究センター中央病院小児科 | 小児血液腫瘍科 | 当院登録なし | 参加者募集終了-試験継続中 | 厚生労働省科学研究費補助金 |

別紙21 臨床研究の実施状況

臨床研究以外の研究実施総件数: 0

(平成20年1月以降の臨床研究以外の小児がんに関連する研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の実施状況について記載すること。)

| 研究開始時期 | 研究名 | 研究代表者・所属 | 実施診療科 | 研究概要 |
|--------|-----|----------|-------|------|
| 1 | 年 月 | | | |
| 2 | 年 月 | | | |
| 3 | 年 月 | | | |
| 4 | 年 月 | | | |
| 5 | 年 月 | | | |
| 6 | 年 月 | | | |
| 7 | 年 月 | | | |
| 8 | 年 月 | | | |
| 9 | 年 月 | | | |
| 10 | 年 月 | | | |

別紙22 長期滞在施設又はこれに準じる施設

病院名: 大阪市立総合医療センター

(病院からの距離、施設内の設備(調理スペース、ランドリー、プレイルーム等)、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。)

| | | | |
|---|---|---|--|
| 場 所 | 都島センタービル 8階 | 〔周辺地図〕  | 〔施設(8階)間取り〕  |
| | 〔所在地〕大阪市都島区大阪市都島区中野町2丁目 | | |
| | 大阪市立総合医療センター隣接ビル | | |
| | (同一敷地内 西側) | | |
| 広 さ | 病院正面玄関から114m、徒歩2分 | 〔施設内の風景〕  | (網かけ部分) |
| | 面積: 28.27㎡ ~ 29.89㎡ 間取り: すべて1K (バルコニー有り) | | |
| 部屋数 | 全8室 |  | |
| 設 備 | 冷暖房完備、フローリング床、キッチン、バス、トイレ付。 | | |
| 備付備品 | テレビ、冷蔵庫、湯沸かしポット、掃除機、テーブル、ふとん | | |
| | 洗濯機、乾燥機は病棟にあり。 | | |
| 使用料 | 一泊当たり1人1,000円 | | |
| その他 | 施設の管理・運営は病院(直営)による。 | | |
| <p>当センター附属施設以外に、これに準ずる施設としてアフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)とがんの子供を守る会が運営する『アフラックペアレンツハウス大阪』(URL http://www.aflac.co.jp/corp/mesena/parents_house_04.html)も案内している。</p> | | | |